

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29（2017）5・8 NO6

校長 伊波喜一

天空に 尾びれ広げて 悠々と （父母の）思い重なり こいのぼり舞う
学校が始まり、実質的に一ト月が過ぎました。子ども達も生活のリズムも整ってきたところではないでしょうか。どうぞオーバーワークになりすぎないよう、互いに一声かけてゆきましょう。

私が初任の頃、学年主任のT先生は校務が終わった後に、ほぼ毎日私話を聞いてくださいました。授業が上手くいかないこと、子どもの心をつかめないこと、保護者会で何を話したらいいかわからないことなど、出来ないことだらけの相談でした（初任なので仕方がなかったと今なら思えますが、当時は何とかしよう必死で、そこまで思い至りませんでした）。T先生はくわえ煙草をして椅子にもたれながら、黙って聞いてくださいました。全てにこたえるのではなく、十回相談して一回の割合での助言でした。ですから、会話と会話の間（あいだ）に、膨大な量の間（ま）がありました。今にして思うと、その間があったおかげで、自分の頭で考える習慣が身についたように思います。教えすぎないことほど難しいことはありません。それを身で示されたT先生に、感謝の念が尽きません。